

第 27 回岩手県食の安全安心委員会議事録

1 開催日時及び場所

令和 3 年 7 月 28 日（水）13 時 30 分から 15 時 00 分 盛岡地区合同庁舎 8 階 大会議室

2 出席者の氏名

(1) 委員

磯田朋子委員、小山田緑委員、千葉悦子委員、山口真樹委員、後藤和彦委員、嵯峨潤子委員、佐藤圭委員、照井勝也委員、名郷根久美委員、赤石真美委員、千葉俊之委員、寺嶋淳委員、村元美代委員

(2) 関係室課等

立花佳典復興危機管理室主査、沼田智彦防災課主任主査、柚はなの学事振興課主事、八重樫香環境保全課主任主査、沖田潤一郎資源循環推進課主査、佐藤和行若者女性協働推進室主任主査、小野償子健康国保課主任主査、近藤誠一健康国保課主査、松崎浩恵子ども子育て支援室主任主査、浪岡愛彩農林水産企画室主事、沼田芳宏流通課主任主査、久水しほ流通課主事、織笠千夏農業振興課技師、澁谷まどか農業普及技術課上席農業普及員、廣田志紀子農業普及技術課主任、菅野史拓農産園芸課主任主査、熊谷芳浩畜産課主査、阿部瑛水産振興課技師、中川友治保健体育課保健体育担当課長、根澤倫子保健体育課指導主事、岩渕忠徳生涯学習文化財課主任社会教育主事、高橋知子環境保健研究センター首席専門研究員兼保健科学部長、松山和弘環境保健研究センター衛生科学部長、桂木加代子県民生活センター主任主査

(3) 事務局

石田知子企画理事兼環境生活部長、菊池正勝環境生活副部長、新沼司県民くらしの安全課総括課長、佐藤敦食の安全安心課長、阿部嘉智主任主査、築田尚美主査、白藤裕久主査、白沢明美主任、小野寺秀宣主任、古舘航主事

3 議事の概要

(1) 開会

(2) あいさつ

石田知子企画理事兼環境生活部長があいさつを述べた。

(3) 議事

ア 参考指標の修正について

(ア) 岩手県食の安全安心推進計画

(イ) 岩手県食育推進計画

佐藤敦食の安全安心課長から資料 1 により説明があり、修正が承認された。

【質問・意見等】

なし

イ 岩手県食の安全安心推進計画

(ア) 平成28年度から令和2年度における食の安全安心の確保のための施策評価について佐藤敦食の安全安心課長から資料2により説明があった。

【質問・意見等】

なし

(イ) 令和2年度における取組実績について

佐藤敦食の安全安心課長から資料3-1により説明があった。また、県以外の主体の取組について、資料3-2により磯田朋子委員、佐藤圭委員、赤石真美委員から説明があった。

【質問・意見等】

- 後藤和彦委員 オリンピックで食材を提供するということもあり GAP の取組を進めてきた面もあると思う。一方で、オリンピックにおいてゴムのように固い肉が提供されている記事などがあるが、どのようなものが提供されているのか。
- 沼田芳宏流通課主任主査 オリンピック、パラリンピック提供される食材は、調達基準を満たしたものになっている。調達状況については手元に資料がないので後日回答する。

※ 流通課からの後日回答

- ・オリンピック・パラリンピック選手村で提供される食材は、大会終了後に東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会から公表されると聞いており、現時点においては、その詳細については把握できない状況にある。

- 千葉俊之委員 資料3の取組35と36について、同じ内容が記載されている。まだ説明を受けていない資料になるが資料5の取組8に資料3の取組35と同じ項目があるが、資料5の記載で良いのではないか。
- 中川友治保健体育課保健体育担当課長 食の安全安心推進計画と食育推進計画で重複する内容であり、再掲している取組になる。確認して回答する。

※ その後、議事「その他」において、下記のとおり追加回答があった。

- 中川友治保健体育課保健体育担当課長 先ほど千葉委員から御指摘があった資料3の取組35について、資料5の取組8の記載が正しいので、修正する。

ウ 岩手県食育推進計画

(ア) 平成28年度から令和2年度における食の安全安心の確保のための施策評価について佐藤敦食の安全安心課長から資料4により説明があった。

【質問・意見等】

- 後藤和彦委員 主要指標の「朝食を毎日食べる子どもの割合」について、食べていない原因は把握しているか。
- 小野儋子健康国保課主任主査 直接調査した結果はないが、朝が遅い、親が食べないな

ど家庭ごとの事情によるものと考えられる。

- **後藤和彦委員** 生活サイクルなどを調べるなど原因について整理しないと目標を達成し兼ねるのではないか。
- **中川友治保健体育課保健体育担当課長** 生活習慣については肥満につながるということもあり、よく噛んで食べることや栄養バランス、朝食を含め規則正しく食事を摂ることを取りまとめた資料を作成し、学校を通じて家庭に啓発している。
- **新沼司県民くらしの安全課総括課長** 朝食欠食について、国の調査等を見ると、寝る時間が遅いために起きる時間が遅く、起きてすぐなので食欲がないといったように、生活リズムが乱れている場合に朝食を欠食する割合が多いと指摘されている。また、親が朝食を食べないなど他の要素も多い。そのあたりを家庭として子どもに早寝早起きや朝食を食べさせることが大切になってくる。
- **寺嶋淳副委員長** 家庭環境ということで調査が難しいかもしれないが、後藤委員の御指摘のとおり理由を把握することが大切ではないかと思う。
- **名郷根久美委員** 朝食を毎日食べる子どもの食べる割合について、学校での調査だと思うが、調査の方法を教えてください。回答するのは本人か親御さんか。また、朝食と言っても人によっては、牛乳だけ飲む、フルーツを食べる、親御さんが作ったスムージーを飲むなど色々あると思うが、朝食の定義はあるのか。水を飲むことで朝食を摂っていると回答しているという話を聞いたことがある。
- **小野償子健康国保課主任主査** 平成16年度から開始した調査で、毎年県内の小学校1年生、4年生、中学校1年生、3年生、高校3年生の各学年4,000人を対象としている。委員御指摘のとおり食事の中身までは調査していない。聞き方は3択になっており「ほとんど毎日食べる」「週に2～3日食べない」「週4日以上食べない」の中から選ぶ形になっている。中学校、高校は生徒自身が回答しており、小学生の場合に1年生は御父兄の方が一緒に回答しているケースもあるかもしれない。
- **名郷根久美委員** 朝食の中身については、食が変わってきていることもあるし、芸能人のような体形になりたくてその人と同じく朝はサプリだけにしたりすることがある年代でもあると思うので、中身も大事だということを認識していただきたい。

(イ) 令和2年度における取組実績について

佐藤敦食の安全安心課長から資料5-1により説明があった。また、県以外の主体の取組について、資料5-2により佐藤圭委員から説明があった。

【質問・意見等】

- **名郷根久美委員** 食育推進全国大会inいわてのコンテンツについて、ずっと掲載されているということで良いか。
- **佐藤敦食の安全安心課長** 大会公式ホームページは時期を見て閉鎖することになる。県民大会が11月にあるので、それが一つの目安と考えている。コンテンツについては、可能

な限り県のホームページに移して、その後も閲覧できるようにしていく。

- **千葉悦子委員** 保育園でも、市の食育推進計画に準じて、畑作り、野菜作り、クッキングや、市の栄養士と協働した栄養教室、地域の事業者と協働したヒマワリの植ええや油作りなど食育活動に取り組んでいる。また、早寝早起き朝ごはんについても園でも指導しており、0歳児、1歳児、2歳児では連絡帳などで家庭での食育を指導している。エコロルの保育園訪問を活用する場合、どのように手続きすればいいか。また、最近スーパーのお惣菜等の包装材に、紙を加工したものや、経木を使ったものが見られる。テイクアウトでも経木を加工した容器が出てきている。包装材についても安全安心なものを推奨していただけるとありがたい。
- **沖田潤一郎資源循環推進課主査** エコロルの幼稚園訪問については県のホームページなどでお知らせしているのでお声がけいただくか、差し支えなければ、この会議が終わった後に打合せさせていただければと思う。なお、新型コロナウイルス感染症の影響で回数を制限したり、園児と距離をとるなど実施方法を工夫している。
- **佐藤敦食の安全安心課長** 県では衛生面から指導しているが、多様な容器包装が使われることを否定するものではないので、良いものはどんどん広がると思う。

エ その他

【質問・意見等】

- **村元美代委員** 一人の学生から聞いた話なので参考としてお伝えする。本学科の学生ということHACCPについて勉強しており、アルバイト先でHACCPが導入されたことを喜んでいたら、同時に廃棄も増えてきたということも言っていた。HACCPと3R、SDGsなどを同時並行していく必要があるのかなと感じることがあった。
- **佐藤敦食の安全安心課長** HACCPの場合は様々な管理の必要があり、どうしても提供できず廃棄せざるを得ないということだと思うが、運用を工夫していただくほか、今の時期であれば飲食店では客の入り数見込みを立てにくいなどコロナの影響も考えられる。
- **山口真樹委員** 質問として、子ども食堂の利用者数、設置件数を教えていただきたい。また、意見として、もしかしたら食事について保護者に教育が必要なのではないか。利用する子供たちだけでなく親世代の傾向も知る必要があるのではないかと考えている
- **松崎浩恵子ども子育て支援室主任主査** 子ども食堂の設置、子どもの居場所確保に取り組む市町村数は令和2年度末で21市町村、54か所の設置がある。毎日ではなく月に何回、週に何回と場所によって頻度が異なるので、利用者数、朝ごはんや家庭の状況は詳しく押さえていない。居場所の確保を通じて必要な支援窓口とつなぐことを目的に活動している所が増えている。
- **山口真樹委員** 子ども食堂でお弁当を提供するのと、家庭に食材を提供するのが別部門だと聞いているが、連携すれば子ども食堂に来た子に朝食になるものを配布するなどもっといいものになるのではと感じている。

- **小野償子健康国保課主任主査** 保護者向けの教育については、「健康的な食事推進マスター」を300名養成しており、企業等で働く子供たちの保護者年代の方を対象に教室を開催し、基本的な食習慣やバランスのとれた食事についての実践支援をしている。

(4) **その他**

新沼司県民くらしの安全課総括課長から、第16回食育推進全国大会の情報提供があった。

(5) **閉会**